

会報あがた

松本県ヶ丘高等学校東京同窓会

発行人 大沢清重
編集人 森山修二
発行所 千代田区大手町2の6の2
日本ビル6階
東南貿易株式会社内
TEL.03(279)2771(代表)
1部 100円(郵送料含)

母校の近況報告

松本県ヶ丘高校

校長 安江昭祐

本年度の人事異動で、前校長市村先生の後任として赴任いたしました、安江でございます。輝かしい伝統をもつ名門校に勤務できますことを、無上の光栄と存じておりますが、同時にその責任の重大さを痛感しております。

新設の見通しとなりました。一万三千平方メートル(約四千坪)の広さになります。また特別教室棟の新設と大正R.C校舎の改築は、五カ年計画で実現化され、本年は地盤調査をいたします。

もとより浅学非才の身でありませんが、同窓会の皆様から、ご鞭撻・ご助言を賜わる中で最善を尽してまいりたいと存じますので、今後よろしくお願い申し上げます。

つきに学校の近況について、若干ふれさせていただきます。

【グラウンド拡張と校舎改築整備計画について】

他校に比して狭隘なグラウンドと老朽化している校舎の改築のため昨秋、期成同盟会(会長・和合松本市長)が設立され、本年一月、県に陳情した結果、第二運動場は昭和六十年前半には



アルプスを背に建つ母校(下中央がグラウンド)

【本年の進路状況】

卒業生の96%が進学希望の本校ですが、新入試制度を本年に踏まえて、従前の入試制度最後の機会のため、浪人と現役との厳しいせめぎあいがあるが、そのため、近來にない良い結果となりました。

すなわち国公立131、私立332、短大81、各種25の計569名の合格を見ました(二浪、併願を含む)。国公立では130の太台に乗り、信大75は全国トップの成績ですが、反面、浪人も14人と卒業生の約40%に達しました。

就職は27人で官公庁や地元有力企業に早々に決定しました。

【運動クラブの活動状況】

いつもの年に比べ、昨年はやや不振でしたが、県陵健児らしい澆刺たるプレーが見受けられ本年に期待が寄せられます。

【卒業30周年記念事業】

本年も四月十七日の創立記念日には、高校第6回卒業生の皆さんが、図書券三十万円を寄贈されました。

記念講演は、同期の上条勇氏(水資源公団)が「日本の水文化」の演題で話され、意義深い開校記念日となりました。

同窓会の皆様には帰郷された折は、ぜひ母校にお立寄りいただきまして後輩を励まし、近況などお聞かせ下さいませようお願い申し上げます。

松本県ヶ丘高等学校は、大正十一年(一九二二)十月五日に県立「松本第二中学校」として認可を受け、翌十二年四月十七日、小松武平氏を校長に七名の職員と百名の生徒で開校した。

第二次大戦後の昭和二十三年(一九四八)、新学制の施行により現校名の県立「松本県ヶ丘高等学校」となった。

本校は、改編直前から通信教育部を設置していたが、のちに通信制課程と改称、さらに昭和四十五年(一九七〇)松本筑摩高校に移管するまで

松本県ヶ丘高校

今年創立六十年目

の二十二年間、勤労青年をはじめ、通学不便の者、家庭人や高齢者、病弱者のための教育を担当していた。

昭和四十八年(一九七三)三月二十二日、不慮の火災により木造旧校舎を焼失したが同窓生や地元諸先輩の尽力で近代的設備の完備した校舎が再建された。

現在在校生は、千百九名(そのうち女子は四百三十五名)、同窓生は一万六千余人を数える。なお、本年は、本校創立六十一年目に入り、一層の発展が期待される。

株式会社 日本貿易社

通信機器・販売・工事一式

代表取締役 **高山公伸**

(高5回卒)

港区西新橋2-15-3
TEL 591-3006

保証企画工芸株式会社

デザイン企画・印刷全般

代表取締役 **興 国彦**

(高5回卒)

台東区竜泉1-4-3
TEL 875-1641

われら仲間

同期会の近況

もう一つの同窓会

— 四期のよしみ —

松本県ヶ丘高校東京同窓会が今年もこの六月、副都心・新宿の地で行なう旨、その案内をいただいた。すでに十七回を迎える由、これも歴代ご関係の役員皆さんのお力添えによるものと、心から感謝の意を申しあげたい。

同じ学窓に学び、母校の想い出と、同郷・同輩の近況を目のあたりすることの楽しみは、また一入である。ところで、この同窓という大きな傘の中には同年次に卒業された在京者などなどの同期会や、クラブ活動のOB会などが少なくないのでなかろうか。

ちなみに、他にもあろうが、我が「県陵四期会」を紹介させていただきます。

この同期会は、昭和二十七年の高校第四回の卒業生である。東京周辺在住の住所確認者が集まりきて、産ぶ声をあげたのは、昭和三十年前後のことであろうか(代表幹事・大月実氏)。爾来二月七日(二十七年の〇七)を

とつて)を毎年の例会日として同期の参加を呼びかけ合つて来た。今日ではもつて進展し、七月二日(あの連勝式投票券にアヤかり)を加え、年二回の例会が恒例化されている。この会の幹事役は、在校時のクラス順(A組・I組)による輪番制で行なわれ、ますますの発展である。

本年二月の例会は、数えて二十六回目であった。百十数名中四十名に及ぶ古き男、女生徒さんの参加をいただき、ともども同期生の消息に花を咲かせ、いっけない雪見の宴に、一層の親交が深められたことは言うまでもない。

思うに、年々齊々、酒食は量から質へ、質から話題へと相応の変化が何とまぶしいことか、数多い同窓の同志の意気軒昂を祈りたい。

(国)

ツワモノ揃い:

七期会プロフィール

いにしえの昔から「七」にまつわる言葉は「縁起が良い」とされてきました。

七宝、七回、七賢、七経、七堂、七僧、七徳、七社、七書、など、いろいろありますが、野球でも「ラッキー・セブン」などは絶好のチャンスであります

し、果てはパチンコの「777」に至るまで「七」は、なぜか人の心を和ませ、そして鼓舞せずにはおかないような、そんな響きがあるように思われます。

前置きが長くなりましたが、七期会の東京勢は一一〇余名を数え、同期生の三分の一となり、ます。東京支部長の花岡俊君を中心に、隔年一回位の同期会と一年一〜二回のゴルフ会を開催しており、ゴルフの時は、松本の本会からも何人か参加して行なわれます。そのほか同期生が、三々五々集まる「城」として同期の山田里男君経営になる赤坂の「パブ・えん」があります。

七期会の「にんげん」はバラエティに富み、まさにいま流行の血液型人間学の宝庫のような感があります。和して同ぜず：というか、普段は離れていても何かことある時は、パツと集つて結束して事に当たるといふ良さがあります。小異を捨てて大同につくという七期独自の調整作用が働くわけです。

そんなわけで、毎年開催に決まった全学の東京同窓会も、こ

としては七期が設営当番というこ

十周年の記念事業推進年に当たります。今回の総会運営をバネにその余勢をかって、母校発展のお役に立ちたいと思います。

(文責・桐原俊文)

合同会議を開催

県陵三一會(高校8回卒)

当会では、今年の二月四日、松本・東京合同の「三一會」を卒業当時の各クラスの恩師を迎え、母校において全体会議を開催しました。

会員は昭和六十一年に卒業三十周年を迎えるに当たり、事業計画の一環として、会員より会費及び寄付を募り、県陵発展の一助として寄付を行なうことを決定しました。

当日の夜には場所を美ヶ原温泉ホテルに移し、約七十名が出席して懇親会を行いました。

次回は六十年八月に合同の会を開く予定であります。会員諸氏は今から松本に集合できるよう計画して下さい。

なお本年分の会費未納の方は次回へ振込願います。また寄付も受付けております。

振込先 八十二銀行東町支店
口座番号 普通28426「松本県ヶ丘高校31年卒業同窓会」

(文責・浜一昌)

株式会社 オリエンタル

タイプオフセット印刷及印刷全般

取締役社長 **山本 康**

(高5回卒)

千代田区西神田3-9-14

TEL 262-4755

野原産業株式会社

建築・建設資材全般

代表取締役社長 **萩原 忠良**

(高5回卒)

新宿区四ッ谷1の4

TEL 357-1251

まだまだ若い

—中13回卒業—

松岡博一

紀元二千六百年。何と古めかしい言葉か。

大正十二年開校といえ、ぼ我々が生まれた頃であり、第一回生の樋口名譽会長から数えて十三回、昭和十五年の卒業である。五十年史を見てもほとんど記録のない時代である。まだ若いと感じている自意識とは別に随分昔のことであると思う。

勿論五人の孫に囲まれては、年老いたと思われても仕方がないが、担任の三浦、佐藤両先生が健在であれば、やはり私などはまだ若僧である。

思い出せば、その昔、軍事教練の帰り、松高の角を曲り校舎の見えるあたりから先頭のラッパ手の吹く響きに重たい足どり

に力が入り、整然と歩調をとる。そのラッパ手の一人が大沢幹事長であり、また彼が大学時代の

「三八式歩兵銃」全日本射撃チャンピオンは、今日となつてはなお永遠の保持者である。

気象庁にいた和田君の手にふれる九段の桜が、いわゆる開花宣言であり、白井君の手に上がる小旗がダービーなど一瞬の興奮をかきたてる発馬の合図であり、同期生はそれぞれ第二の人生に向つてゐる。

今、東京百年の人口を見るに明治一五年……一〇万人
大正 九年……三七〇万人
昭和 五年……四四〇万人
一五年……五五〇万人
二〇年……三五〇万人
五九年……一〇〇万人

この都市の流れの中に先輩が築き、後輩の多くが一員として活躍しておられると思う。

パンパンと戦いの音ではなくVAN・VANと先端技術革新の時代であり平和であるが、職場においても厳しい責任を負う方々、健康には充分注意してほしい。私も皆様のご支援を戴き

松本県ヶ丘高校東京同窓会の会員名簿が八年ぶりに発行され好評だ。中学一回から、今春卒業の高校三十六回までの会員と恩師等二千四百余名を、できる限り詳細に収載した。

八年ぶりに名簿発行

B5版・一五〇ページ。横組み縦長のため見やすく、表紙も青竹カラーを使用。アカ抜けた感じになつてゐる。総会出席会員のほか、希望者には一部一〇〇〇円で頒布する。

今後、三年位のローテーションで改訂版を出して行く予定。

文京区議員として一年が過ぎました。この紙上より厚くお礼申し上げます。末端行政においても行革、高齢化問題、中小企業振興、福祉など、六十の手習いとしてはきつい勉強ですが、頑張りたいと考え、特に教育に因しては佐藤先生から戴いた「文反故」有難く拝読しております。

同窓会も大沢幹事長のかつての力強いラッパの音と共にお互い、その持つ力を助け合い、ますます発展することを祈念いたします。(筆者は現在・文京区議)

また恒例となつています高卒業生の卒業三十周年記念事業も、本年は高校6回卒業生によって去る四月十七日、母校において記念講演会、記念品贈呈式が行なわれ、本会三役も同席、有意義な行事を終りました。

なお来年度は高校第7回生に引継がれ、今から準備が進められているようです。

また本会の総会もここ数年、年ごとに盛会になり、五十八年度も二百四十名からの出席を得て、松本市の勤労者福祉センターにおいて盛會裡に催され、大いに旧交を温めることができました。本年も同会場において六月二十日午後六時から開催すべく準備を進めており、多数の会員の参加を希望しています。

最後に、東京同窓会のみならず、皆様のご発展を祈念いたします。

（事務局長・小沢武雄）

東京同窓会が今や三千名の会員を擁し、大いに活躍しておられることに對し、心から祝福し敬意を表します。

さて皆様の郷里の近況を二、三お知らせいたします。

昭和三年三月、第一回生八十六名を送つて以来、今春の三百六十八名を加えて実に一万六千三百四十名の卒業生を出している母校も、今日では生徒数の増加に施設整備が追い付かず、一方では大正RC校舎の老朽化など、教育の機能面から新設校並みの新しい教育の形態へ即応出来るよう抜本的改築が強く望ま

れ、そこで次の三点、①第二グラウンドの新設②図書館、美術教

室などの特別教育棟の建設③大正RC校舎の改築の早期実現のため、地元松本市、PTA、同窓会が三者一体となつて強力な運動を進めるため、昨年十二月二十二日、期成同盟会を発足させ、会長の松本市長を先頭に県当局へ陳情など運動を進めてまいり、同僚県議及び関係各位のご努力もあつて、新年度には第二グラウンド購入の予算が付けられるなど、誠に明るい見通しになつてゐます。

同窓会 本部だより

（事務局長・小沢武雄）

株式会社 武田産業

カメラケース及感光包装材料全般
生産業務部長 **大澤 壽長**
(高5回卒)

中央区日本橋室町4-5
TEL 241-0247

国際電測興業株式会社

電子計測機全般
代表取締役 **小宮山 勲**
(高5回卒)

板橋区東山町52-13
TEL 974-5411

県陵を甲子園に……

— 県陵文明論 —

梶 俊翁

全国の高校野球フアンを熱狂させる夏の甲子園大会が、ことしも八月八日、開幕する。

大正四年にはじまった大会も幾度遷を経て、ことしは第六十六回ノ……わが県陵軍の活躍やいかに……地区予選、県大会のカベを突破して、甲子園の土を踏むことができるであろうか。

過去に一回だけわが県陵軍もあわや甲子園ノという場面があった。忘れもしない昭和三十三年、第三十九回大会の信越地区予選のことである。

新潟市の白山球場でおこなわ

出版案内

長崎門十郎著

「わが半生の記」

恩師の長崎門十郎先生が、自著「わが半生の記」膠着のひとのささやきを出版された。

旧制二中から高校にかけて、四十一年間教壇に立ち、県陵の化学教育に長崎あり……と声望を謳われた先生が、現代の教育への警鐘の意味をこめて筆をとられたもの。

内容は、長年の経験と実績を

63—36—三五三一。

なのである。

ら毎年

下さい。(降旗)

れた決勝戦で、わが軍は上田松尾高(現・上田高)と対戦。

遠く離れた新潟の地での県勢同志、それも普通校同志の対決であった。しかも、どちらが勝つても初出場ということで、両軍にえも言われぬプレッシャーがかかった。

この年は、好投手・笹川の力投と打線の奮起で決勝にコマを進め、大いに期待されたが、結果は2—4で惜敗した。

勝利の女神に見做され、千載一遇ともいふべき、甲子園への出場チャンスを失したわけであ

もとに教師時代のあれこれを、短文にまとめたものと、各新聞に提言として投書したものを収録した二部構成になっている。

生徒に愛情を注ぎ、生徒と共に歩んで来られた先生にふさわしく、ちよっぴり辛口でユニークな教育論を展開されている。四六版、上製。二四八頁。頒布価格一〇〇〇円(送料三〇〇円)。

問合せは、〒390松本市深志一五の八 深志ビル 門十郎調剤薬局 長崎門十郎 電話02

63—36—三五三一。

なのである。

ら毎年

下さい。(降旗)

る。晴れて信越代表となった上田松尾高も、それ以後の甲子園出場はないが、大会二回戦で強豪・平安高を2—1で退け、信州健児の気を吐いた。

野球にもレバやタラは通用しないが、もし県陵が甲子園の土を踏んでいたら……と思うと、残念無念の思い一入である。

夏の大会を占う前哨戦である春の北信越大会では、中信地区予選で、早々に敗退してしまつた。昨夏の県大会でもベスト16に残るのがせいぜいであつた。

県大会における県陵軍への評価は、「古豪・試合巧者・ベスト8の常連……」等であり、事実良いところまで行つた年もあつたが、このところ伝統校や新進校におされつ放しで、パツとしない。

県陵の校技はサッカーでありまたバスケットも輝かしい戦歴がある。確かに野球が高校スポーツのすべてではない。有名校化を狙う一部の私立高のように「何が何でも甲子園……」ということでもない。女子生徒が四〇%を占め、進学校の誉れ高い県陵が、何をいまさら甲子園……の空気もあろう。

しかしである。六十年の星霜を経た県陵が、次なる飛躍へ向うとき、どうしても避けて通れないのが、これまた「甲子園」なのである。

校技として栄えたサッカーもいまや、県下ナンパーワン・チームではなく、進学においても旧一期校や有力私大は僅かだ。物事の内容と質が問われるいま、県陵は逆にチンマリと、おとなしく固まつてしまいつつあるのではないだろうか。先行き不透明ないまこそ、時として破天荒なことがあつても良いのではなからうか。

県陵軍を甲子園へ送ることによつて、「県陵」そのものの活性化を計ろうではないか。

県陵のOB諸氏一人ひとり「わが心の甲子園」つまりは、われらが青春を後輩の生徒諸君に託そうではないか。

熱っぽく、目をかがやかせて県陵ナインの活躍を祈り、語るうではないか。セカンダリーイズムを脱却し、名実共にナンパーワンの存在になるために……

※以上の暴論(?)につきまして、ご意見をお寄せ下さい。当同窓会事務局気付「K3の会」(県陵を甲子園で活躍させる会)代表・桐原)あて。

きょう17回総回 本年から毎年開催に決まつた松本県ケ丘高校東京同窓会は、きょう六月八日新宿ワシントンホテルで開催される。約三百名の出席が見込まれ、盛会になりそうである。

運営資金募集締切

七十一万三千余円

松本県ケ丘高校東京同窓会では、会運営のための資金として五十八年三月から募集を開始、同年六月三日の第十六回総会時で締切りましたが、各回期のご協力により七十一万三千七百十円が拠出されました。厚くお礼申し上げます。(事務局)

編集後記

「あがた」第五号をお届けいたします。今号から会報担当幹事として不慣れな仕事に手こずりましたが、発行にこぎつきました内心「ホッ」としています。今更ながら前任スタッフのご苦勞を思い感謝いたします。西塔、栗山、降旗諸兄ノどうもありがとう……(森山)

▼：総会会報名簿の作業が無事進行し、うれしきでいっぱいです。お手伝いした甲斐がありました。(桐原)

▼：なぜか私だけ会報メンバーに居残つた感じになりましたが、今号ほど苦しかったです。縮切りに追われ、ラフタッチな編集になつてしまいました。どうにかお許し下さい。会員諸氏のお原稿や活発なご意見をお寄せ下さい。(降旗)